

登録番号	プロトコール名			
C90-51-2	多発性骨髄腫 Dara+Bd (9コース以降)			
診療科	血液内科	1クールの日数	28日	
審査日	2017年12月25日	所要時間	220分	適応外使用 <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
適応病名	多発性骨髄腫	放射線療法	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
実施部署	<input checked="" type="checkbox"/> 外来、 <input checked="" type="checkbox"/> 病棟、 <input type="checkbox"/> その他( )			
適応分類	<input type="checkbox"/> 初発、 <input checked="" type="checkbox"/> 進行・再発、 <input type="checkbox"/> 術後補助、 <input type="checkbox"/> 術前補助、 <input type="checkbox"/> その他( )			
番号	抗がん薬名	1日投与量	投与方法	投与日(d1, d8等)
1	Daratumumab(ダラザレックス)・D	16mg/kg	d.i.v.	day1
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
エビデンスレベル	<input checked="" type="checkbox"/> 治療 (エビデンスレベル <input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 6 )			
ガイドライン文献名	N Engl J Med 2016;375:1319-31.			
その他(減量・増量規定、プロトコールに関する補足説明など)	ダラザレックス投与によるinfusion reactionを軽減させるために、本剤投与開始1～3時間前に副腎皮質ホルモン、解熱鎮痛剤及び抗ヒスタミン剤を投与する。 ダラザレックスは生理食塩液を用いて希釈後の総量を500-1,000mLとし、50mL/時の投与速度で点滴静注を開始。Infusion reactionが認められなかった場合には、患者の状態を観察しながら投与速度を変更する(投与速度の上限は200mL/時)。			

プロトコールに関する解説	
<p>プロトコールに関する解説はありません。</p>	

## がん化学療法処方

プロトコール名		1クールの日数	
多発性骨髄腫 Dara+Bd (9コース以降)		28日	
投与日	薬品名 (※赤字は抗がん薬)	投与経路	投与時間
day1	① カロナール 400mg, ネオマレルミンTR 6mg § ダラザレックス投与1時間前までに内服. 問題なければ15分前まで短縮可. ② ソルコーテフ 200mg + 生食 50ml § ダラザレックス投与直前 ③ 生食50mL(フラッシュ) ④ <b>ダラザレックス</b> 16 mg/kg + 生食 * 0.2μmのインラインフィルターを使用すること ⑤ 生食50mL(フラッシュ)  * ダラザレックスの希釈・投与速度について; 生理食塩液を用いて希釈後の総量を500mLとし, 100mL/時の投与速度で点滴静注を開始. Infusion reactionが認められなかった場合には, 患者の状態を観察しながら投与速度を以下のように変更することができる. ただし, 投与速度の上限は200mL/時とする.  本剤の希釈後の総量及び投与速度 投与開始からの投与速度 (mL/時) 0~1時間: 100 1~2時間: 150 2~3時間: 200 3時間以降: 200	内服  点滴静注  点滴静注 点滴静注  点滴静注	  15分  5分  5分
プロトコール 適応時 表示コメント	ダラザレックス投与1時間前までにネオマレルミンTR6mg+カロナール400mg内服する。問題なければ15分前まで短縮可。		
照射併用時 照射線量	グレイ (備考欄: )		